



山武農業事務所 改良普及課
TEL:0475-54-0226
FAX:0475-52-7914

山武地域の生育状況

6月上旬は気温が平年より高く推移しましたが、中旬に入って平年並みに落ち着いています。概ね生育は順調に推移しており、幼穂形成期も例年並みが見込まれます。

台風2号による影響で、深水状態が長く続いたほ場では、茎数の確保が遅れている様子が見受けられます。また、藻が稲の上に覆い被さったほ場では生育が停滞しています。茎数の確保が遅れているほ場では、浅水管理を行い茎数を確保してから、中干しに入りましょう。

梅雨に入り、病害の発生しやすい時期になりました。補植用の苗はいもち病などの発生源となるため、早急に処分しましょう。

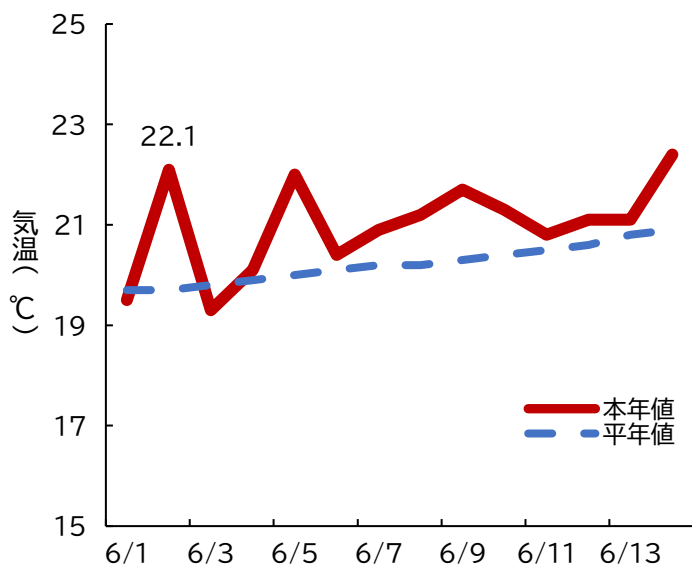


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

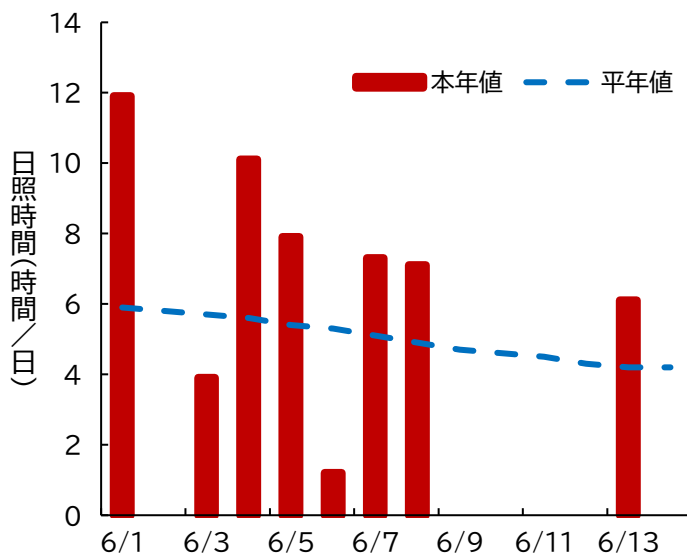


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

幼穂形成期予測(6月16日現在)*1

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	6/15	6/16	6/24	6/23
5/1	6/20	6/22	6/30	6/30
5/15	6/28	6/29	7/7	7/7

穂肥施用期予測(6月16日現在)*2

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	6/22	6/23	7/1	6/30
5/1	6/27	6/29	7/7	7/7
5/15	7/5	7/6	7/14	7/14

*1 幼穂形成期とは幼穂が1~2mmになる時期のことを指しています。

予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

*2 穂肥施用時期の詳細は「水稻の生育状況と当面の対策第3報」をご参照ください。

これからの管理のポイント

○幼穂形成期が近づいています

幼穂形成期の確認ができると、**穂肥の施用時期や出穂期の予測**ができるため、管理計画を立てやすくなります。気候により生育の進み具合は毎年変動するため、生育に合った管理を心掛けましょう。

○確認方法

生育が中庸な5~10株の1番太い茎を抜き、**図3**を参考に、一枚ずつ丁寧に葉鞘をはぎ、幼穂を確認したら幼穂長を測ります。**調査した株の内80%で幼穂長が1mm**を超えた時期が幼穂形成期となります。

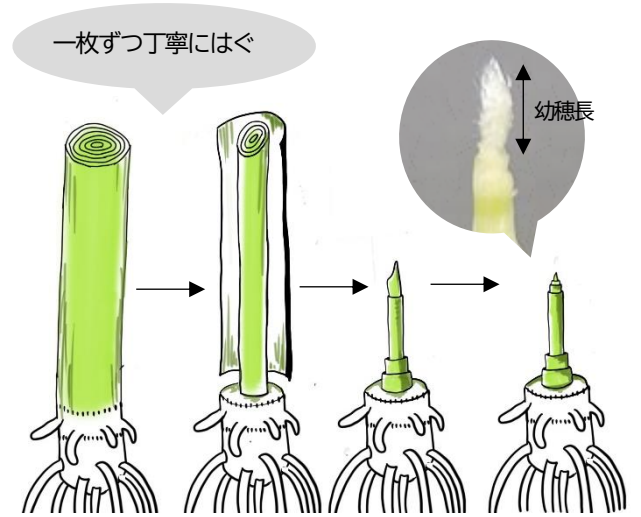


図3 幼穂の確認方法

○穂肥の施用時期予測

穂肥の施用は表1を参考に、幼穂の長さや、幼穂形成期からの日数で判断できます。施肥量については下記コラムを参考にしてください。

表1 穂肥施用期と幼穂長の目安

品種	幼穂形成期からの日数	幼穂長の目安
ふさおとめ	0~7日後	0.1~1cm
ふさこがね	7日後	1cm
コシヒカリ	7~15日後	1~8cm
粒すけ	7日後	1cm

○出穂期予測

出穂期はどの品種も幼穂形成期から**概ね25日後**となります。高温が続くと生育が早くすすみ、出穂期を早く迎えることもあるため、ほ場をよく確認しましょう。

コラム② 肥料削減 ~その穂肥本当に必要?~

国際情勢の影響により、化学肥料の価格が高騰しています。施肥管理を見直すことで、肥料代の削減が図れます。稲をよく観察して施用量や施用時期を決めましょう。

観察する点は**①葉色、②高さ(草丈)、③茎の数**の3点です。葉の色が濃い、丈が高い、茎が多い場合は穂肥の施用量削減又は無施肥で良い可能性が高くなります。表2を参考に、上記3点の観察結果から施肥の目安を確認しましょう。

表2 穂肥施用量判断目安(コシヒカリの場合)

葉色×茎数/m ²	草丈	穂肥の量と施用時期
16,000 以下	70cm 未満	▲
16,000~20,000	70~80cm 未満	△
20,000~	75cm 未満	○
	75~82cm	◎

※1 葉色計(SPAD)による数値です。カラースケールを使用される場合は、以下の表に従い、変換してから計算して下さい。

表3 カラースケールとSPADの変換値

カラースケール	3	3.5	4	4.5	5
SPAD	24.8	28.7	32.6	36.4	40.3

▲施肥の増量又は標準量で施用時期を2~3日早める
 △標準量の追肥(窒素3kg/10a)
 ○減肥(窒素1~2kg/10a)し、施用時期を遅らせる
 ◎穂肥の必要なし

生育診断による肥料の削減は肥料価格高騰対策事業の取組メニューの1つとなっています

生育調査結果(6月15日現在)

*本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*CS値とは、カラスケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
東金市 5/3 移植	本年	51.4(96%)	25.0(91%)	450(95%)	9.3(92%)	5.1(101%)
	前年	46.0	19.9	336	9.8	4.6

ふさこがね

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/3 移植	本年	45.9(94%)	16.9(47%)	304(50%)	8.8(89%)	5.3(93%)
	前年	43.0	31.9	589	9.2	5.0

ふさおとめ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/1 移植	本年	45.4(103%)	19.6(77%)	310(61%)	8.7(81%)	5.2(99%)
	前年	33.0	27.3	538	9.8	5.2

アキヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/25 移植	本年	55.9(107%)	28.6(77%)	498(84%)	10.1(100%)	5.6(99%)
	前年	43.7	29.7	546	10.1	5.3

夢あおば

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/株)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/18 移植	本年	37.7(87%)	6.7(32%)	121(38%)	5.9(94%)	-
	前年	35.6	12.6	228	6.3	5.0

農林総合研究センター 成東育成地 による生育調査結果(6月15日現在)

*調査は全て山武市で行われています。

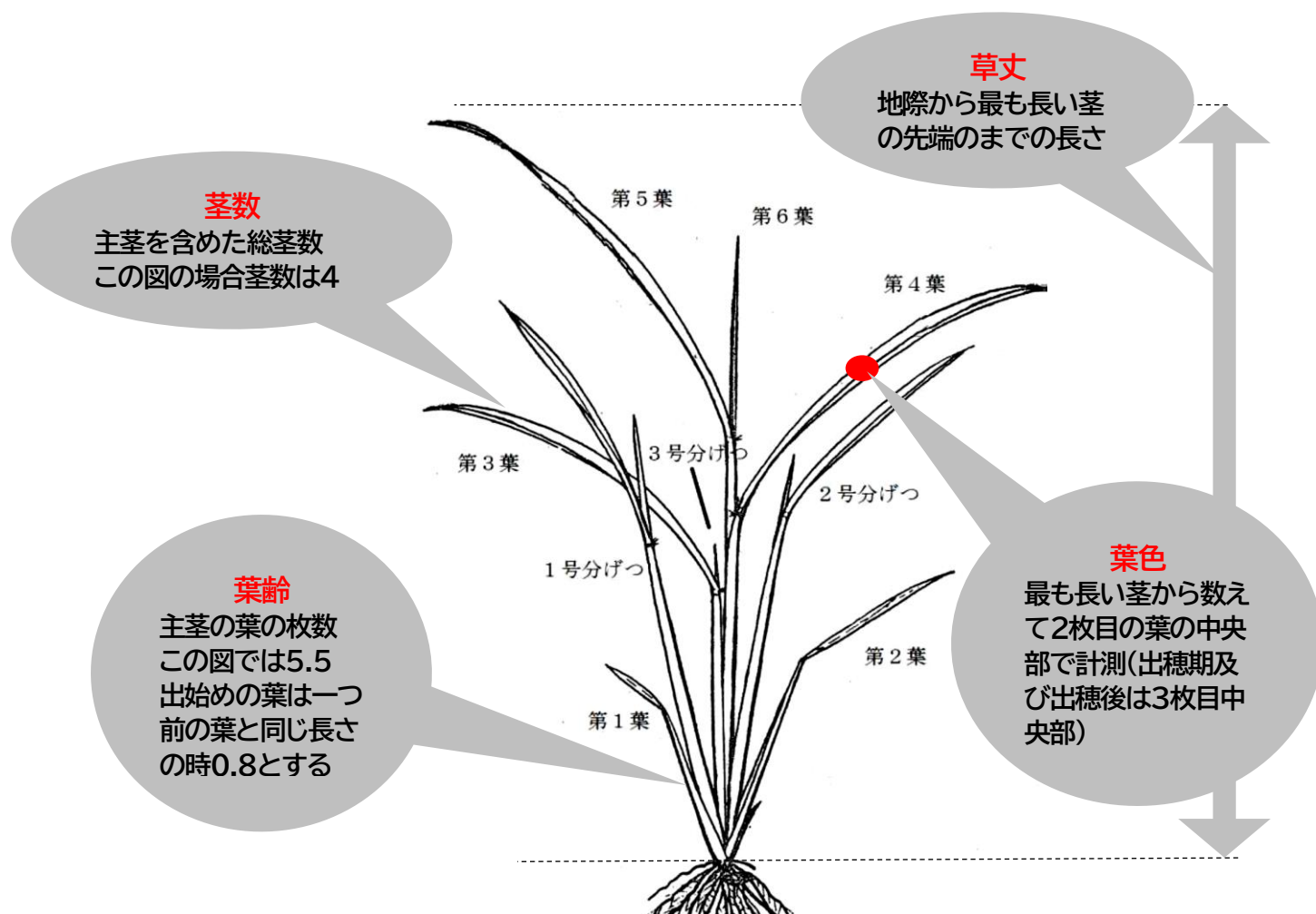
*本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*CS値とは、カラースケールによる数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種 移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/数)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS)値
コシヒカリ 4/25 移植	本年	53.7(107%)	33.9(116%)	515(95%)	9.8(102%)	4.84(103%)
	前年	46.1	30.5	564	9.4	4.8
ふさこがね 4/25 移植	本年	50.9(104%)	33.0(107%)	413(72%)	10.2(101%)	6.0(111%)
	前年	43.8	29.4	553	9.7	5.0
ふさおとめ 4/25 移植	本年	49.5(104%)	29.7(94%)	377(64%)	10.6(103%)	5.0(105%)
	前年	45.4	26.2	493	10.1	4.7
粒すけ 4/25 移植	本年	49.5(100%)	31.0(108%)	400(73%)	10.5(100%)	5.7(112%)
	前年	43.8	27.9	505	10.0	5.0
粒すけ 5/15 移植	本年	37.9(106%)	18.5(90%)	290(72%)	9.3(111%)	6.1(105%)
	前年	32.7	14.5	251	8.5	5.2

・データの見方(調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



次回の発行は6月29日を予定しています。